

地域高規格道路松本系魚川連絡道路意見交換会まとめ

市町村名	穂高町	
開催日時	第1回 9月18日他 第2回 9月27日他 第3回 10月11日他 第4回 10月25日他 第5回 11月8日他 第6回 12月7日(合同)	
1. 道路行政全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・財政が極めてひっ迫しているなか、医療や教育や福祉を重点的に力を入れるべき。 ・地域高規格道路で投資される多くの一般財源は他の公共投資に回すべき。 ・税金の使い道や環境についての意見も大事にしてほしい。 ・昭和50年代の要望を出したときと状況が違う。必要性も財源も無い中での高規格道路建設はナンセンス。4車線もの自専道は時代背景にそぐわない。 ・子孫に残さなければならないのは借金ではなく、美しい安曇野の風景。 ・厳しい財政事情、環境悪化、高齢化社会を目の前にして、自分たちの生活を見つめ直さなければいけない時ではないか。 ・必要ないものまでつくるのはやめてほしい。お金をかける必要があるものは、道路だけではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理することができないものは造るべきではなく、これ以上の無駄な事業の維持管理という負担を増やさない方法を考えるべき。 ・県は白紙に戻して検討すると言った。それならば、調査区間を返上すべきだ。 ・県の総合的な行政ビジョンというものが見えてこない。松本から新潟県境一帯にかけての地域の総合的なプロジェクト、プランが一切無く、道路事業というのは本末転倒ではないか。 ・道路建設のあり方が政官民3者一体となって旧態然たる形が継続していることが問題だと思う。 ・国から補助があるから道路を建設するという発想ではなく、穂高町にとって必要かどうかというビジョンを持つことが必要。10年先にこの町がどうあるべきかを考えなければいけない。 ・期成同盟会の要望書は必ずしも住民の願いではなかった。
2. 地域の課題、問題点(まちづくり、自然、生活)	<ul style="list-style-type: none"> ・農道や山麓線を車が高速で走り、農作業ができない。国道を渡れない。 ・新しい道を作るほど困っていない。糸魚川まで十分に早く行かれる。渋滞は感じない。 ・莫大なお金を使って安曇野にこれ以上道路は要らない。南北四本の道路がすでにある。 ・道づくりと道づくりを様々な側面から考えるべき。 ・区長や企業の役員の見解が住民の総意ではない。これまで町民の声が反映されてこなかった。 ・町民が暮らしやすい町民のための道づくりをすべきだ。 ・穂高町の街づくりに計画性がない。将来を見据えたビジョンが見えない。 ・これからの穂高町をどうするのか、農業も道路も皆で考えてどうしていきたいかを検討できる場を町や議員の方には作って欲しい。 ・交通の流れで市街地の空洞化が進み、町の個性が失われてきた。滞在型・体験型・リピート性のある観光地づくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の樹木や景観を生かした安曇野にふさわしい歩行者と自転車のための遊歩道を作る。 ・自然環境を守りたい。経済と利便性ばかり追うのはやめ、価値観の転換を図る時ではないか。 ・風景も大事。水田のある風景を守りたい。 ・穂高町を訪れる観光客は、今ここにある自然を求めて来ている。 ・もし、道が便利になったら、大系線はどうなるのか。 ・車に乗れない人でも安心して暮らせる町をつくるのが課題ではないか。 ・車社会を見直し公共交通等の充実させ脱車社会を目指すこと必要ではないか。 ・いかに車両を抑制し、公共的な交通機関に転換していくか、その他の交通手段を開発していくか。 ・渋滞であるから、経済効果があるから道路を建設するという形はおかしいのではないか。 ・各地域に病院を整備したほうがメリットがある。高度医療機関へはヘリコプターで対応。
3. 道路の必要性(建設の是非)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備は、国の計画。返上しても、その金を穂高町が有効に使えることにはならない。高規格道路と、一般道路の整備は切り離して考えるべきだ。 ・現在は車社会であり、理想論では問題解決にならない。自動車は廃れない。 ・国営アルプスあずみの公園の開業に伴い、アクセスの利便性からもこの道路は必要。 ・生活道路と流通道路の区分け、生活車輛と通過車輛の分離のため、この道路が必要。 ・農業は農業者が少しでもやり易くしておかないとなくなってしまう。安曇野の田園風景を将来に向け保全するためにも、早く自動車専用道路を造り、合わせて生活道路を整備すること。 ・町や県の発展のためには必要だから作るべきだ。 ・姫川港の整備に伴い貿易面から見ても、地域を結ぶアクセスとして地域高規格道路は必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ・町を分断する道路は要らない。 ・道路ができれば発展するという考えは過去のもの。 ・道路を作ると穂高町は通過される。また、観光客が減るあるいは日帰り客が増える恐れがある。 ・工場の海外進出が高いテンポで進む中、姫川港や松本空港に頼った産業の発展は時代錯誤だ。 ・観光道路の整備は、いまあるものを。観光客のために、安全な歩道、自転車道路の整備を早急に。 ・安曇野の発展は道路によらない発展が望ましい。観光地で勝ち残るのは、個性的なところ。 ・4車線の自専道を新たに造らず必要最小限の道路整備を考えるべき。 ・生活道路の整備が遅れている。住民が安心して暮らせるための生活道路の整備を優先すべきだ。 ・子供にとって大切な森を壊さずに残したい。子供のために何を残すべきかを考えることが重要。 ・自然環境を破壊しないことこそが大切。できるだけ自然を残していかなければならない。 ・安曇野の自然環境、景観が損なわれる地域高規格道路は必要でない。 ・地下水に影響が出て、美しい自然や景観が破壊され水が汚染される。わさび田への悪影響で地域産業、観光産業に影を落す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路建設による排ガスなど、人体、特に、子供、お年よりなどへの悪影響が予想される。 ・通学路で歩道が無いところに歩道を作る。積雪期の歩道確保、側溝の危険部改修などの整備。 ・渋滞箇所には狭いところを拡幅、主要道路の交差点で右折専用のレーン設置、立体交差、インターにはゲートの増設や道路の拡幅、公共交通機関の利用などで対応できる。 ・オリンピック道路、国道、山麓線を東西に結ぶ道路が充実していない。東西の道路整備を行う。 ・北の方の道路整備をする場合も4車線はいらぬ。 ・小谷村住民の生活上の道路問題は部分的道路整備にメリットがあり、まず、現道を使いやすく整備することが大事ではないか。 ・大町以北小谷方面への実情を考えると、高規格道路ではなく、生活道路のはずだ。 ・日本中で、造り始めた道路の多くが途中で建設ストップされている。この松系道路もその懸念がある中で造るのは問題。 ・この計画が行政主導で作られたものなのか、本当に住民が欲してできた計画なのか見極めたい。 ・ルートを変えればいいという発想はおかしい。 ・この道路計画が今も妥当なのか再検討すべきである。 ・費用対効果と交通量予測に疑問。大町以北には道路建設が必要という意見があるが、費用便益から採算が取れない路線。波田～糸魚川間全線整備の場合の費用便益は未算出とずさん。トータルにこの道路事業を評価する指標を出さずに進めることは非常に問題がある。 ・道路建設は別荘地購入者をだますことになる。 ・新たな道路建設ではなく既存の道路整備を望む。たとえば山麓線に遊歩道や狭い部分の拡幅などの整備を。行うときは計画時の住民参加、CM方式の発注、意欲ある地元業者受注で観光道路の長野県モデルとなるように。
4. 整備手法、ルート案	<ul style="list-style-type: none"> ・ルートは最も建設費が安く済み、環境あるいは社会生活の面に対する影響が最も少ない高瀬川左岸ルートが最も望ましい。 ・高瀬川等の堤防を強化しながらそのうえで道路を作ればよい。 ・万が一あるとしての妥協案を示すとすれば、百歩譲ってCルート。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現道を生かした道路整備。オリンピック道路で主要交差点を立体化、高瀬川左岸を2車線に等。 ・白馬へは、アクセスをしやすくする必要はあるかもしれないが、長野市からのオリンピック道路もある。費用と効果をよく考えるべきです。 ・糸魚川 - 白馬のルートはフォッサマグナに位置し、技術的に不可能。
5. 今後の進め方について(住民参加、広報、情報提供、合意形成)	<ul style="list-style-type: none"> ・この意見交換会がどのように利用されるのか不安だ。言いつばなしで終わるのはごめんだ。 ・県は交換会で出た意見をどう汲み取り、集約していくのか明確にして欲しい。 ・ひとつひとつの意見を大事にしてほしい。 ・北の方の道路整備を行う場合、県負担の長期的な展望に立ち、情報公開しながらどのような整備手法が良いか判断すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民に財政事情や道路財源の現在と今後の可能性、最大、中間、最小の道路整備費用を示し、説明責任を果たすべき。 ・県は中立ならば松本魚川連絡道路の事業関係の予算を計上すべきでない。 ・この計画を撤回した上で各地域が抱える諸問題等についてそれぞれ住民公開の形で解決の手法を見出していくべきである。
6. 意見交換会について	<ul style="list-style-type: none"> ・この意見交換会の位置付けがはっきりしない。 ・個人個人の意見を述べることができ、1グループ20人程度のグループ分けは効果的だった。 ・このように住民の声を聴く場を設けたことは、評価できる。 ・意見交換会の考え方を県は整理して臨むべき。行政責任を回避し住民の自主性に逃れていくようなやり方では建設的な意見集約は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループ、他市町村、広域の意見交流が必要。 ・この会の意義に疑問を感じる。 ・建設を進める立場での資料しか提供されていない。 ・データの公開はなかなか要求したものがそのまま出てこないのが不満だった。 ・論議のレベルとしては深まりを持っていかねばならない。
その他の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・町長にどう受け止めるか問うと、「賛成の声も多い」と。今まで言ってきた「住民意見から態度を決める」に一致していない。 	

意見の多少に関わらず、主な意見を載せています。